



34 小児の侵襲性歯周炎に関連する口腔細菌の抗菌薬耐性の分析

○宮井由記子, 仲 周平, 仲野道代
(岡山大・歯・小児歯)

【背景】
小児に起こる侵襲性歯周炎は稀であるが、発症した場合はその症状は重症であることが多い。本症で発生する歯肉に特徴であるが、急速な歯槽膿瘍の増殖を伴い、歯根破折が認められるにもかかわらず、歯肉が早期回復したことから侵襲性歯周炎と診断された患者を本邦に報告してきている。

【これまでの研究結果】
侵襲性歯肉炎関連菌 (Congruent crevicular fluid: GCF) の細菌叢の解析を行ってきた。

A. baumannii の感染率の比較
高度で歯槽膿瘍を呈し、GCF 中の *Akkermansia baumannii* の感染率が有意に高かった。

Akkermansia baumannii
・トク菌叢の一種
・バイオフィルム形成の能力が強い
・歯肉性菌に属する Red complex に属する *Porphyromonas gingivalis* の菌叢外菌叢に存在するヘルペス結合性タンパク質をコードする *P. gingivalis* *Diploleptococcus gingivalis* と高度関連する。

本研究では、歯肉および歯槽膿瘍における *A. baumannii* の各種抗菌薬の感受性を評価し、比較して報告する。

【対象と方法】

対象と方法	対象	結果
対象年齢	5歳児	7歳児以上は歯肉が炎症性で歯肉の炎症が著明であり、歯肉の炎症が著明である。
バイオフィルム形成を抑制する薬剤	含有なし	歯肉の炎症が著明である。
歯肉膿瘍でのフラジリシス	なし	歯肉の炎症が著明である。
GCF 採取場所	下顎歯肉及び歯槽膿瘍	歯肉の炎症が著明である。

【結果】

【結論】

高度で歯槽膿瘍を呈し、GCF 中の *A. baumannii* の感染率が有意に高かった。

【謝辞】
岡山大学歯学部歯周病学教室の理事 (藤井 浩二) 先生に感謝いたします。

【参考文献】
1. Miyai Y, Nakano M, Nakano M, et al. (2020) Antibiotic resistance of *A. baumannii* in children with aggressive periodontitis. *Journal of Oral Microbiology and Immunology*.
2. Nakano M, Miyai Y, Nakano M, et al. (2020) Antibiotic resistance of *A. baumannii* in children with aggressive periodontitis. *Journal of Oral Microbiology and Immunology*.